



JCLIFE

2022年
10月号

JCI 一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook:<http://www.facebook.com/isojcnw>

9月例会

9月例会はテーマを「前程万里～To the bright Future～」として講師を株式会社FRASCO代表取締役 尾崎香苗先生と尾道市役所政策企画課主事 奥忠直先生をお招きして開催いたしました。

それぞれの立場でのまちづくりについて、講師の尾崎先生からは実際に携わってきた事例を中心にお話をして頂き、また奥様からは、尾道市の内部で携わっていたことや尾道市で集めたデータを公開できる範囲で用いて講演して頂きました。最後には今後のまちづくりのヒントを少しでも聞き出せればと思いい三者鼎談を行いました。



今後のまちづくりを担う団体として、「地域課題」や「国や市の方針」、自分のしたいことを調査・研究した上で実践・検証が必要であることを再認識し、また行政との連携が可能な部分に関しては、協力しながら今後の尾道のまちの発展に繋げていける様に取り組んでいきます。

最後に事業も残っておりますので、今後も気を引き締め直して、引き続きご協力の程よろしくお願ひ致します。

(記事：まちの未来創造委員会委員長 村上直弘)



ブロック大会

9月4日(日)府中市内において、第52回広島ブロック大会 in 府中が開催されました。

午前中は、広島ブロック大会式典が開催され、多くのご来賓の方、特別会員の皆様にもお越しいただいた中でブロック協議会の活動報告を行いました。尾道青年会議所は新年例会の動画配信、家族会、65周年記念式典の開催、ブロックアカデミーの報告を行いました。

そして、これからも郷土愛溢れる活動を行っていくことを宣言いたしました。その後、次年度へバトンをつなぐべく、2023年度ブロック会長予定者の福山青年会議所の島田宗輔君の紹介とブロック大会の主幹LOMが大竹青年会議所となることが発表されました。

最後に、今年度で青年会議所を卒業される先輩方を送り出すべく卒業式と大懇親会が執り行われました。途中シークレットゲストも登場し、大いに盛り上がり楽しませていただきました。

(記事：吉田嵩正)



仮入会員 研修

9月8日(木)に行いました仮入会研修座学の講習に多くのご参加をいただきありがとうございます。JCIに入るうえで、マナーやルール規則などを学び、JCI会員としての品位を学ぶ機会となりました。

特に印象的だったのが、JCIクリード、JCIイミッシェン、ビジョン、JCI宣言文、綱領の練習です。

一人ずつなれない登壇降壇をし、緊張した面持ちで、しっかりと声を出し練習を終えることができました。最初は少し長く、テンポが速いためついでいくのがやつかもありませんが、1年間もすれば徐々に慣れてくると思います。

耳で覚え、目で覚え練習し、早く一緒に唱和ができるようになることを期待しています。

また、研修の終了後、懇親会を行いました。なかなかプライベートや仕事の相談を職場では聞けないことも、こうした同年代の若手で集まり集うことで、新たに学びと発見を得ることがあると思います。

仮入会員の皆様が今回の研修を受け、素晴らしいJCI生活の第一歩を踏み出すことが出来るよう祈念いたします。

(記事…会員拡大委員会委員長 沼尾 一)



新理事研修

9月14日(水)、尾道商工会議所大会議室にて、次年度の理事予定者を対象にした新理事研修を行いました。

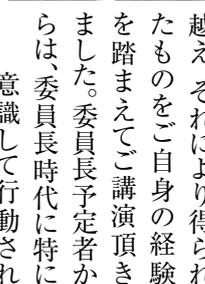
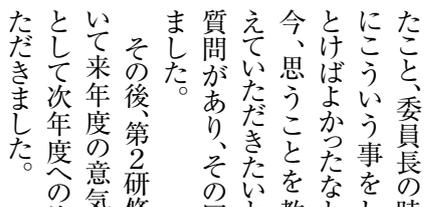
今回はテーマを「私がJCI活動をする原動力」とし、第62代理事長安本先輩を講師にお招きし、理事としての心構えや、辛くてしんどい時どのようにそれを乗り越え、それにより得られたものをご自身の経験を踏まえてご講演頂きました。委員長予定者からは、委員長時代に特に意識して行動されたこと、委員長の時にこういう事をしとけばよかったなど今、思うことを教えていただきました。

その後、第2研修として委員長予定者から色紙を用いて来年度の意気込みを伝えて頂きました。委員長として次年度への決意を発表し、気持ちを一つにしてくださいました。

第3研修では、次年度から本格導入される日本青年会議所推奨のアジェンダシステムを操作し、実際に上程をする研修を行いました。

安本先輩、お忙しい中、大変有意義なものとなるご講演をいただきまして、ありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

(記事…山本 圭介)



室合同委員会

2023年度新体制で、室合同委員会が3年ぶりにグリーンヒル尾道にて開催されました。

次年度吉田理事長予定者よりコロナ禍前に行われていた青年会議所の姿を取り戻したいという決意と覚悟が印象的でした。その後、次年度委員会単位での初の委員会会議が行われました。委員長予定者は、次年度に向けた方針や想いについて、メンバー1人ひとりに届くよう一生懸命伝えていました。その後は、懇親会で親睦を深めながら、非常に和やかな雰囲気で開催しました。今年度事業がまだまだ盛り沢山ではありますが、未来を見据えて次年度の準備を進めてまいります。

(記事…総務広報委員会 副委員長 沼尾 一)



卒業生スピーチ



馬原 美晴

少しの時間、どうぞ、よろしくお願ひいたしました。プロフィールをみていただくと、再入会前まで書いていただきました。ありがとうございます。このように会員登録を見返してみますか、こんな委員会あったのかな、こんな人いたのかな、こんな事業をしたのかな、よくよく思い出されます。

2年前の2020年の5月頃、パンデミックで、初めての緊急事態宣言が明けたばかりの頃でした。当時の先輩が、連絡を下さり、今すぐ来いと呼び出されました。すぐ行きますよというので、指定された場所に行きましたら、当時の理事長がいらっしやいました。

パンデミックや、緊急事態宣言は、もちろん誰でも初めての経験だったので、当時の理事長も、どういう風に活動をしていけばいいかなと、すごく頭を悩ませていました。様々な制限下で、予防や対策がなかなか見えない時期でしたが、そのような時でも、悩みながらも、自分たちができることは、かないかと取り組まれておりました。こういう風に悩んで一生懸命考えている様子を見て感心しました。

その理事長の姿に、私自身も、もつと前に進んでいく努力をしなければいけないと、背中を押された気になりました。それが、再入会への契機となり、その後また先輩の方に相談させていただいたり、励ましをいただいたりということ、再入会に至りました。ご尽力いただいた方々には、改めてお礼を申し上げたいと思います。

そして残り2年、いざ入会してみると、ほとんど知った顔がいなくて、最初は正直、焦りました。でも皆さん、とても優しく声をかけてくださり、優しく接してくださり、大変楽しい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございます。

この2年間、緒だった若いメンバーの皆さんにも、

以前在籍期間中の皆さんにも、たくさんの方々にお世話になりました。心からお礼を申し上げます。と思っております。

改めて、会員歴を見ると、ある程度長い期間在籍しておりますので、様々な思い出や、たくさんのお出来事がありました。そういった話はまた別の機会に、お話しさせていただきたいと思っております。是非声をかけてください。よろしくお願ひします。

ようやく最近、ゴルフも始めましたので、どなたでも、いつでも誘っていただければありがたいと思っております。皆さん一緒にゴルフしましょう！

ということで、大変ありのある20代と30代を過ごすことができました。改めて青年会議所って良いとこだなって思っております。本当にありがとうございます。これから皆様の活躍を応援しておりますので、頑張ってください。



内海 洋平

共創まちづくり委員会の内海です。JICに入って色々なことがありましたが、JICに入ってから色々と助けられました。今日はJIC入ってよかったことをお話ししたいと思います。

入会したきっかけからなのですが、私が34になる歳だった時に外で働いていて、御調で社長の話をやっていた父親がステイジ4のガンになりました。自分が高校生時代に「家業を継ぐか」と親父に聞かれ、「継ぐん」と言っていたので多分寂しい思いをさせたこともあって、親孝行みたいな気持ちで御調に帰ってその会社に入りました。

それから1ヶ月もしない内に親父は死んでしまつて、ワケもわからない状態でしたし、会社をややこしい問題があることが分かって、「どうしよう」となつてました。

で、弁護士、山脇先輩のところに行かせてもらうようになつて色々相談させていたんだけど、ううなりました。またすごい若い頃からお世話になつて久先輩のところに行かせてもらい、色々話を聞いてもらつてました。

ある日、多分相談じゃなくて愚痴になつてしまつたと思うのですが、ひと通り聞いてもらつた後に「わかた、お前JIC入れ」と言われ、どこかに電話をかけた。その電話を代わると「今日メシ行きましよう」と言われ、新開の焼き鳥屋に行きましたら、当時理事長の麻生先輩と、大委員長だった今岡さん、らつちやつて、気持ちのいい乾杯をして入会することとなりまして、おそらく小林先輩の「JIC入れ」という言葉に

は、しんどい、キツイのはお前だけじゃないのを知れ、というメッセージがあったんだと思つていました。で、この年に離婚しまして、バツイチ同盟に加盟しました。

入つて1年目は本当に何もわからない状態だったのですが、その時の委員会で、いま残つてるのは森川委員長だけなのですが、みなさん優しくして甘やかされました。この前はお祝いまでしていただいていたので、ありがとうございます。

反対に2年目は巻幡先輩以外、全員まだ現役という高升純委員会として今年の委員会でも4人も一緒です。

みんな本当に元気で、とにかく飲んで大体朝になって、この7月に西日本大雨があり、農業の事業をやっていたのですが、御調のババヤ達が全滅してしまいました。プラス、会社のややこしい問題も露呈してしまつて、会社を辞めたいいけない状況になりました。

「もうJICも辞めんと」となつて、委員会メンバーに言おうと思つて委員会何かのアフターの村一番で「辞めんといけんかも」と言つたら普段飲み場ではふざけてるメンバーが親身になつて聞いてくれ、「辞めるな」と。推薦人の山脇先輩や麻生先輩も「辞めると」「何なら理事までやつてくれ」と言つておりました。

それで続けることになつて、色々としんどい時期だったけど、委員会に行つたら楽しくて助けたんだと思つています。

3・4年目はフリーランスになつて、のらくら仕事して農業してみたいな生活をしていて、4年目は同級生の小川先輩の夜の長い委員会なので楽しくJIC出てました。大体「次行こう」と言つたら、山本基平君から「どうせ覚えないんだから行く意味ないでしょ」と怒られてました。

で、その年に委員長をすることが決まりました。その2・3週間後にはある会社の社長やつてくれたので「やばいな」と感じてました。

委員長の年は、まずは安楽城さんと元太さんには色々迷惑をかけました。すみませんでした。委員会メンバーには本当に感謝しています。コロナだけじゃなく皆さん委員会に出してくれて、一緒に取り組んでくれて、夜遅くまで付き合つてくれて。

しかも幹事の高垣裕吉君と安保大輔君が来年委員長するということで本当に嬉しく思つてます。横山大二郎君のスピーチでも言つてましたが、農業でこの年も水害にあつてしまつて。その時、マジで凹んでたんです。その時、メンバー全員手伝いに来てくれて、同期の知和先輩や慎三、でも、もうみんなでゲラゲラ笑いながら作業できると、本当前向きにさせてもらえて助けられました。

今年にははや人間扱いしていただいてないですが、楽しくやらせてもらつてます。出てくるメンバーが全員自分より歴が長いので、怖いです。

まだ一、事業がありますのでみなさまよろしくお願ひします。最後になりますが、JICの中では、私みたいに仕事の内容や立場がコロナ変わるのほす、ごく珍しいのではないかと思います。

ただJICの多くの方は、そういうの関係なく付き合つてくれて、本当に色々助けてくれました。みんなそれぞれ立場ややつていることは違つたし、それぞれしんどい大変さはあると思います。

そんな中で、一緒に活動したり、協力したり、バカみたいにはしゃいだり、困つてるときは助け合つたりできる、すごくありがたい繋がりが作つてくれたかな、と思つています。

これからも人の繋がりを大切にしてもらつて協力できる会であつてほしいなと願つてます。あと現役は3ヶ月もないですが、卒業しても仲良くしましょう。

ありがとうございました。



安楽城 大作

お疲れ様です。僕は14年くらいJICにお世話になつたんですけれども、それを3つに分けて、前半、ちょうど間があいて中盤後半というように、後半に感じていたこと、考えていたことをお話しさせていただきます。

僕はお社に入社したのが学生上がりつてすぐで、まず入会してから委員長が終わるくらいまでつていのが前半になりますが、僕にとっては本当に人生の中でも一番大事な時期だったな、という風に思つております。

僕は会社に入社したのが学生上がりつてすぐで、社会経験をするこなく、入社半年ほどでJICに誘つていただきました。その年に入会をさせていただきました。正直あまり深く考えるこなく入会したという経緯でしたが、そこから先はとにかく必死に先輩についていたな、というように感じてました。

推薦者のお二方を筆頭に先輩にも、すごく恵まれて、その先輩方にどうやら自分が認められる、か、せつたか自分が二緒させていたただけるので、どうやら自分が貢献できるか、というのを考えながらやつたのが前半戦でした。

その当時、番毛トリーにしていたのは、頼まれたこと、誘われたことは全部断らずにやつていこうというこでして、世間知らずで正直さなきないことが多く、よく怒られました。たくさん迷惑をかけましたけど、そういう姿勢を認めてもらえたのか、突き離されてもしょうがないようなこもあつた。

たんですけれども、そんな中でずっと面倒を見てもらったな、という風に思っています。本当に当時支えてくれた先輩方には感謝をしております。

そうした中で、幹事やセクレタリーを経験させていたって、いざ自分が委員長として選んでいただきたいのだけど、まずシヨックだったのは自分が何をしたいのか、何ができるのかという風に考えたときに、全然浮かんでこなかったこと。それまでの経験でいろいろ見させてもらっていたので、自分ができるだろうという根拠のない自信があったんですけど、まずそれが打ちのめされました。当時の副理事長や副委員長に支えてもらって、やっとなら1年のテーマを決めて、何をやるかというのを決めていったんですけれども、今度おち当ったのは、人に物を頼めないというところで、最初にやった事業が4月の例会だったんですけども、委員メンバーに何を頼んでよいかもわからずあつた登山をしようという企画の中で、その現地調査に5月に行こうとなつた時に、しんと大山の登山になかなかメンバーが付き合ってくれないだろう、という風に思っていたら、ほとんどの人が参加してくれて、誰も文句も言わずに登って、終わって後にポジティブな話をするなかで、自分だけじゃないんだな、という風なことを感じて、やっとなんか殻にこもっているのを開けることができた感じがしました。その後もほんとに優秀な委員会メンバーでしたので、そこから先はいくらなんに任せていきながら、この1年でなく当時はいくらなんに注意をされたんですけど、「一番記憶に残っているのは」

「お前は想像力がない」と言われたことです。正直その当時は、何を言われているのかがあまり分からずピンときてなかつたんですけど、そこから先になつていろいろ経験させてもらう中でようやく当時のその言葉が理解できたような感じがします。またメンバーに支えてもらいながら、なんとか委員長の最後の事業が終わった時に先輩に言っていたことがその後の人生の教訓になりました。僕は正直、やりきった感、という達成感というものがなかつたんです。そんな時に「人がついでくれば立派なリーダーだ」という話をしていたときも言いました。もうその言葉一つですごく救われてさっきも言いましたけれども、頼まれ事だったり、誘われ事は断らないようにやろうと、委員長の時も、自分が先に帰ることというのはいやめよう、というふうなことだけをモットーにしてました。そういうふうに見てくれる人がいるんだなと感じましたし、自分の中でリーダー像というのが臆気ながら見え

てきた感じがします。それ以外にも本当にいろんな先輩にいろんなことを言ってもらって、その時に聞いた言葉っていうのが、そこから先の人生に生きてきたな、というふう

に思います。

その次の年、副委員長に選んでいただいたんですけども、うちの父親がその年の8月に亡くなりまして、そこから時の理事長の安部理事長から、「お前はもう休めばいい」と言っていたので、そこから副委員長の半年、そしてフロアメンバーとして1年休ませていただきました。その1年半休ませたことについては、自分の人生の中ですごくありがたかったです。突然、父が亡くなった中でゆつくり落ち着いて考えることができた。今までの経験の中で、今自分が何をすべきかというのを落ち着いてやるのができたと思っております。

その後、事務局長に選んでいただいたから2回目の副理事長をさせてもらうまでが僕のJIC生活中盤になるんですけども、その中盤で何を一番思ってたかというところ、自分の指針であったものがなくなつたなかでどうして行こうかということでした。前半は必ず先輩についていくことばかりでしたのでその人たちが卒業されて、少し目標を見失いました。

また僕は入会が少し早かつたので、年齢が上の人が、役職として僕の下につくというアンバランスな関係が続く時期でした。副理事長をさせてもらった時も、工藤さんと宮地さんという年齢が上の方が僕の下で委員長をしてくれました。それと、正直うまい接し方がわからなかつたな、という風に思っています。

なんとか副理事長としての役割は果たそうと思いつながら立ち回りましたが、振り返ってみると、先ほど言いましたけど、リーダーというものは人がついてこないという意味がないと、人がついてきて初めてリーダーなんだ、という話を思い出すと、自分はよいリーダーではなかつたなと、自分の下でやるのがやりにくかつただろうな、という風に思いました。その時に何を思ったかという、自分も自分自身に押し付けてもやりにくかつたんです。それう風に感じました。そこで反省したのが、やっぱり自分の意見や方針をちゃんと決めないといいけないな、というのを一番、その時に思いました。それがいい中で、たまたま、その時にも敬意という言い方はよく使ってたんですけど、やっぱり自分と人とは違う。違う人にどういう風に伝えていくか、というの、やっぱりリーダーとして一番考えていかないと、ああ、なるほど自分独りに残つておりました。その後1年監事させてもらって、もう一度副理事長をさせていただくんですけど、その当時の委員長や委員会メンバーがどういう風に思っていたかは分からないですが、自分なりに、反省を生かして自分の中での中盤は、なんか自分を形成していく

中で自分の役割が何なのかというのを考えていく中で、すごい大事な時期だったんだろうなという風に思っています。

最後に昨年理事長をさせていただきましたけれども、その時には今まで楽しくさせてもらいましたし、これだけ勉強させてもらったので、恩返ししたい。自分が言ってもいいこと、経験したこと、そういう風に伝えていくかというのを考えながらやってきました。ただ、今思うところ、結果的にはみんなに助けてもらい、支えてもらつてばかりでした。難しい状況の中で自分が言ったことに答えてくれて、いろいろ形にしてくれたことは本当に感謝しています。

後半の立場のなかでよく考えていたことが2つあります。まずは私自身、頼まれ事は断らないようにしようと思つてやってきましたけど、ではそれを完璧にできていたかというところはなかつたです。若い時には忙しさなんかを理由にしながら、中途半端になってしまったようなことがよくあります。委員長の時に当時副理事長の坂本さんになんでここまでやるんですか、もういいじゃないですか、というのを何回も言ったことがあるんですけど、いざ自分が会社やJICの上の立場になってみると、頼んだことを完璧にやってくれるところが一番ありがたかつたです。自分の考え方ややり方は間違つてはいたんだなと改めて思いました。もちろん断らない姿勢というのも大事だとは思いますが、やりきるといふことが最も大事なんだと気づかされました。今後の自分の課題でもあり、やっぱり想像力が足りてなかつたんだなと改めて思いました。

もう一つはもっと臨機応変に考えていくことが大事なんじゃないかという事です。コロナ禍ということもあつて、なかなか今まで通りできないなかでJICだからこうあるべきという考えではなかなか形にしていけないのは難しかったです。今後いろんなことが変わっていく中で、もちろん大事にしていかないといいけないこともありますが、やっぱり自分がかつていうことを達成するためにどうするべきかというのを一番に考えるべきで、自分の個性や要因の考え方を大事にするのがよい組織を作る

以上、いろいろ話をさせてもらいましたが、とにかく尾道に帰ってきたときに、今のような40歳としての姿を想像できなかったです。その中で、こんな形で卒業させてもらえるだけで、本当にありがたいなというふうに思います。何年かやってきた中で、こういう方がいんじゃないかというのが結構色々ありますが、最終的には、やっぱり自分を大事にしていくのがいいんじゃないか、という風に思います。僕も世間知らずのまま20代で入会して今40歳になりまわすけれども、正直、自分の自身はあまり変わつてないな、という風に思います。10年の中で様々な役割をいただいた、その立場の中で考え

てきたこと、そしていろんな方に支えてもらえたこととで少しでも成長できたんじゃないかと思えます。自分の個性を生かして、与えられた役割、責任の中で全力を尽くして、というのが大事なんだろうという風に思っております。

長い間大変お世話になりました。ありがとうございます。



岡本 正也

多いな。はい、失礼します。共創まちづくり委員会の岡本です。まずは、今日この場を設けていただきまして、今副理事長ありがとうございます。いろいろ、大変お世話になりました。ありがとうございます。

まず、JICに入るきっかけですけども、18年前で何もわからないですよ。家業を継いで1年目、2年目ぐらいの時にJICがあるんだって聞いて、風になつて、取引先の方が言われてるんなら行っていいです、とお話を聞きました。とりあえず、遊びに行こうって行かれて、行きました。こんな楽しいんかと思いました。まあ、当時22ぐらいだったんですけど、楽しい思いを毎回できるんなら入っていいかなと思つて、一分かりました。じゃあ入ります。って言うて簡単に入つたんですけども、そんなお客様みたいな扱いはされなくて、もう1年目で入会した時から、怒られるわけもなく、もう1年目で入会した人、いや、ということも言われて、怒られたことに非常にシヨックを受けたというか、やる気が全然違つた。なんだってことを覚えてます。今思うと、1回目の委員会から書くものやメモするものを持って行つて、というふうなことはなかつたという風に思っています。

まあ、私経歴長いんで、昔の話をずっとしてもしょうがないんで。当時、LINEとかもないんで、委員会の出欠とかも全部電話するわけですよ。もちろん、いつも出てくれるような人は電話しても出てくれるんですけども、見たことないような人にもお電話するわけですよ。するとですね、電話にも出ない折り返しもないで、当時の委員長とかにも「すみません、ちょっと電話出ないんですけど。」って言うて、わかつたとは言うてくれるんですけども、1回も見ることもなく結局そういう方はなんかやめちやうたんなんです。やっぱ、この初めの3、4年は、もう出欠とるだけでも、さっさと嫌でも、JICも嫌でも、とにかく辞めたいなという風に思っていました。初めの5、6年は、さっさと辞めた。でも僕もやめるって言う言わないんで。電話がかかってくる、こうなりたつて、何とも目標があるわけでもない。こうなりたつて、何とも目標があるわけでもない、さっさとやめた。たね。

たね。

僕がやらないといけないなって思ったのは、平成26年に青山委員長の際に同業者の方が委員長するんだから頑張ろうって思ったからね。青山さんよとJJCに出るようになりた。ね。青山さんが同業者っていうのもあって、すごい頑張っている姿を見て、今までほんと申し訳なかったなっていう気持ちで、この辺からちょっと僕も出るようになりまして。次の年は元ちゃんが委員長の時だったと思うんですけど、また同業者の委員長で2年連続っていうのあって、この辺から意識が変わり始めるのは元ちゃんが言うんだら出にやいけんっていうのはすごく思ったような印象があります。次の年に会員開発室で山本慎也委員長の際に、すごい衝撃的な言葉を覚えてるのが、JJCの理事にもなれんようなやつが会社の社長になれるわけなから。もう一つ言った先輩がおられたんでね。その時に「さくく衝撃的に思って、もし次なんか声かけられたら、もう自分は絶対理事せにやいけんっていう風に思った。意識したのがまさにこの年でした。まあ次の年、委員長になるかたたらならんんですけど。理事選に選ばれるわけもなく、出席日数や出席率は多分あったと思うんですけど。ただ、ずうと例会も出ない合同委員会も出ない、そんなやつがするわけないという風に思われていて、理事選なんか受かるわけないですよ。まあそれは自分が今までそういう風にやってきたんだからしょうがないなって思ってた。

ここから僕のすごい濃いJJC生活になるんですけども、その次の年にブロックゴルフ大会実行特別委員会っていうのができまして、先にまあ理事選があつて、受かったよって言われて、当時の困るよとしませ。安本さんに「やつらもわにやいけん」という決まったことだから今さら変えられない」と言われて。それでも、やっぱり仕事が忙しいうのもあつたんで、ちょっとこねたりもしたんですけども。この年に初めて理事を経験しまして、歌さんにはもうすごい迷惑かけましたし、僕は何かしてかかって、ブロックゴルフの設置しかしてないんですよ。あとは全部歌さんに丸投げして、初めは半々ぐらいでやろうかなとは思ってたんですけど、上程を作るとあれがダメ、これがダメ、もう面倒くさいな歌さんとあれがダメ、歌さんにはこの年迷惑かけたと思えます。でも、この年にブロックゴルフ実行特別委員会をして、やっぱり次の年に副委員長になるんですけども。自分の中で、頼まれたら断つちやいけんのだなっていうのがありまして、次の年、岡田貴臣くんの総務広報委員会の副委員長をするんですけども。この時はもう別に貴臣くんがすごいできる人だったんで、僕何もしてないですね。こんな楽なんじゃって風にも思ってた、次の年に理事明けになるんですけども、高橋洋樹先輩が委員長の時なんですよ、これもイメージじゃないんで、全然思い出も何もないんですけど。えっと次の年、

今の総務の吉田君が委員長された時の副委員長もやつたんですけど。まあ吉田君、そんなにお話ししたことないし、僕極度の人見知りなんで、多分こらんでですけど、僕は極度の人見知りなんだから思にせんとくたさい。別に怒ってるわけでもないです。この時に吉田君大丈夫なんかなと思つたら、ものすごくポテンシャルが高くて、自分がやりたいて。追田さんに挨拶して行つたぐらいい記憶がないんですけど。後は全部吉田君が引き受けてやってくれて、とても楽しい委員会だったと思つた。次の年、今年の平岡委員長の委員会なんですよ。内海さんも言つてましたし、人間の扱いされないですよ。僕なんかもうゴリ返すから。何言つても「うほ」としかLINE返つて来ないです。でも多分、平岡くんも人見知りだと思つたんですけど、僕も極度の人見知りで、そのマイナスとマイナスでプラスにならうって。こんな仲良くなるやつおらんかなって。平岡くんも歴史あるんですけど、今年一緒に委員会じゃなかったら、仲良くなることもなかったと思つた。ほんとと今年は楽しく過ごさせてもらつたんだっていう風に思ってます。

僕のJJC生活なんて、安楽城さんがさつき言われたような、別に濃いなんでなくて、すぐにやめてやるよっていう風にくらいにしか思つてなかった。でも、もう40になつて今年卒業するっていう時、今思ふのはやっぱりやってよかったです。やめるチャンスなんかはないもあつたと思つたんですけど、でも、その中でも辞めなくて本当に良かったと思つた。毎日、仕事終わってパチンコ行って負けて、そんなクソみたいな人生多分歩んでたと思つた。僕はほんとこの団体に入らなかつたら、多分終わって声かけていた。僕みたいな人間でも、やっぱり先輩に声をかけていた。今でも先輩方と仲良くさせてもらつてます。ほんとにJJC入つて、別に自分が成長できてる訳でもないです。入つた時と何も変わらないです。ただ、何が良かったかと言つても、ほんとと人脈です。自分の地元同級生とかでも話せることあります。圧力的に今はJJCの先輩方に誘つてもらつた方が多いです。休日も何してらつてJJCの先輩方と遊んでる。悩みがあればJJCの先輩に相談して。こういう生活になつてしまったので、ほんとに何か困つたことがあれば、もうなんでも困つたことがあれば僕の携帯電話で、大体の職業の方おられますんで相談できます。ほんとに一生付き合えるような友達をJJCの中で得たなつていう風に思ってます。

いものや変わらないことっていうのがあるんですけど。これが一番と思うのは、やっぱりどんな年になつても、理事長に恥をかかせてはいけないっていうのは必ず誰かが言われてたと思つた。来年、吉田理事長のもと皆さんJJC活動されると思います。吉田理事長にだけは、やっぱり恥をかかせないようにしていただきたいなと思つた。毎年、誰かが理事長に恥をかかしちやいけないうつのは、18年前からずっと誰かが言われてたことだと思つた。最後になりました。近年です。僕が思うことがありまして、理事選とかもあつて、理事がどうしてもできないとかがつていう人いると思つた。確かに僕も初めてもう無理やり理事されるまでは、仕事がある、金もない時間もない。それを理由だけに断つてましたし、こんな僕でも時間を作って努力をしてみました。理事を受けることができたんですけど、もう自分が理事選に受けることができません。もし自分が理事選に受けることができれば、よしやろつて思つて心よく受けていた。だいたいと思つた。皆さんが選んだ理事長なんです、その元で皆さんが実際に活動される訳なんです、もし理事に選ばれても、僕は無理とかがつていう風に思つた。どうやって理事を受けてやろつていかつていう風に思つてほしいです。まあ、委員長もできなかつた僕が言うことではないんですけども、ちよつと近年見えていて、僕が入つた頃は皆さん目がギラギラされて、理事選の前には必ず僕が次の年の委員長になるという風な感じで皆さん、もう理事選の前日ぐらいいから、委員長が連れて回つたような時代もあつたんで、今の時代が悪いとは言わないです。ほんととん会員も減少してますし、なかなかできないなとかつていうのはあると思つた。でも、僕みたいな人間ができたつて必ずできると思つた。仕事があるとか、時間がなくてかつていう風に思ってます。僕がこんだけやつてきて、唯後悔したこと、一回だけやつてくれんかつて言われたこと、断つてしまったこと、あつたんですけど、もうそれだけが申し訳ないなつていう思ってます。1年過ごしてきて、そういうことを皆さんはしないようにして欲しいなと思つて、ちよつとこのことを言わせてもらいました。

18年、本当に長い間ありますが、どうもありがとうございました。そして、とても成長させてもらった18年だったと思つた。皆さんなら絶対に僕なんかより全然できると思つた。今後ともお誘い事があれば超人見知りですけど、電話ぐらいいなら出ると思つた。どうぞよろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございました。



(記事：会員拡大委員会委員長 沼尾 一)

しまなみ3JC

心地よい秋の風か
おる尾道うずしおカ
トリークラブの地にて、
天候にも恵まれた中、
2022年度しまなみ
3JCの若き青年たち
の社交場は開かれまし
た。高らかに今岡理事
長の始球式をもって始
まったゴルフの戦いの場
は、熾烈をきわめまし
た。結果は、尾道JJCの
吉田雄大君が優勝し、
準優勝は今治JJCの吉
本悠太郎君でした。し
まなみ3JCとしての新
たなる絆を確認し、コ
ナ禍による影響下にお
いても、これからの活動を邁進していくことを
互いに確認しました。その後、会場を移し開
かれたグリーヒル尾道での引継式にて、尾道
から今治へバトンを渡し、尾道・因島・今治の
絆を確認し、しまなみ街道で繋がりました。



65周年記念事業告知

10月22日(土) 午前11時半より尾道青年
会議所 65周年記念事業 「星に願いを」
おのみち水道願い星」を開催します。

新型コロナウイルスを皮切りに、様々な
暗い出来事が起こり、「これからどうなるの
だろう」という不安と戦いながら、日々過こ
されている方も多いと思います。

こうした状況の中、65年もの間「緒に歩ん
できた尾道が、少しでも前を向けるような
ことができないかと考えました。

「尾道水道に願いを叶える
星がやってくる」

そんなアイデアに辿り着きました。

昨年、九州新幹線開通10周年を記念して
行ったイベント「流れ星新幹線」で、JR九州と
タッグを組んだ、株式会社am21様の全面協
力の元、尾道水道に星が走ります。

お昼の部では、この数年行うことが難し
かった、飲食の店や、星にちなんだゲーム
コーナー、そしてダンス、音楽、書道、太鼓な
ど様々なステージパフォーマンスで、駅前
賑わいを取り戻します。

夕方には、尾道の誇るベッチャー太鼓と
宮神社のお神輿で、無病息災と尾道の明る
い未来を祈ります。

まちは、みんなの願いでできています。
是非、あなたの願いをご投稿ください。
そして、10月22日にぜひお越しください。



ONOMICHIJUDO
星に願いを
NEGAI BOSHI

2022
10月22日(土)
【開場】11時30分 【夜開場】18時
尾道駅前緑地帯広場
雨天順延(10月23日)

「一般社団法人 尾道青年会議所」創立65周年記念事業

おのみち水道 願い星

入場料 無料

公式LINEアカウント
65周年記念事業「星に願いを」
あなたの願いを募集中心!

主催 JCI 一般社団法人 尾道青年会議所
〒722-0035 広島県尾道市土堂2-10-3 商工会議所ビル3F
TEL 083420-1110 FAX 083420-1112 URL http://www.cjci.or.jp

後援 尾道市 尾道商工会議所 尾道市教育委員会

願い星 フェスタ
★ 11:30~18:00 ★

★ダンボールプラネタリウム
★お子様が楽しめるワークショップ・絵日ブース

星探しゲーム 星風BOX 星の射的 星降りますびー 星すくい

願い星 ステージ ★ 12:30~17:00 ★

★ミス尾道が司会のステージで
様々なパフォーマンス

- 12:30 太鼓ユニット鼓鼓
- 13:00 尾道学園 書道部
- 13:30 尾道市立大学ダンス部
- 13:55 土堂っ子太鼓
- 14:20 尾道学園 音楽部
- 14:50 スタジオPick
- 16:00 一宮御神楽
- 16:15 尾道ベッチャー太鼓

おのみち水道 願い星 ★ 18:00~18:50 ★

★尾道初!光のショーが願いをのせて尾道水道を走る

- 18:00 おのみち水道 願い星 スタート
- 18:25 フィナーレショー (駅前緑地帯広場にて)

※平日も緑地帯にて
観望の願い星を募集します

* 新型コロナウイルスの状況によっては、内容の一部変更し行います。
* 雨天等、天候によっては翌日23日に開催します。

編集後記

星空が綺麗な季節になりました。ゆっくり夜空を眺めたいのですが、当委員会は卒業例会に向けて慌ただしく準備をしています。毎晩徹夜をしている大池副委員長のために健康祈願に行こうかと悩んでおりますので、御利益のあるお寺を村橋委員長に教えてあげて下さい。本年度も残り僅かとなり、卒業予定者の委員長が寂しそうな顔をしているので、お酒をたくさん飲んでもらって笑顔で送り出したいと思います! (記事:吉田 嵩正)

